

2014年度 後期		リフレクションペーパー																																																																																																																																					
学科名	建築・デザイン学科																																																																																																																																						
科目名	フラックス・デザイン																																																																																																																																						
科目区分	専門科目	単位数	2単位	開講時期	1年次後期																																																																																																																																		
必修・選択の別	選択必修科目(デザインコース) 選択科目(建築工学コース) 選択科目(建築コース)																																																																																																																																						
担当者	嶋崎 浩樹																																																																																																																																						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・専門や特定の領域に固執せず、常に広い視野から俯瞰する必要性を理解する。(A6) ・分野を超えた繋がりの中で、それらのコネクションとネットワークを理解する。(D3) ・身の回りの様々な物事を通して、プロフェッショナルとして身につけるべき教養を養う。(D3) 																																																																																																																																						
日程と内容	<table border="0"> <tr> <td>14/09/19</td> <td>第1回</td> <td>導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/09/26</td> <td>第2回</td> <td>パラダイム考1</td> <td>創造的活動</td> <td>コンピューターVSヒューマンエラー</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/10/03</td> <td>第3回</td> <td>パラダイム考2</td> <td>疑惑</td> <td>様々な視点から</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/10/10</td> <td>第4回</td> <td>パラダイム考3</td> <td>異端</td> <td>その重要性から</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/10/17</td> <td>第5回</td> <td>パラダイム考4</td> <td>情報</td> <td>ストックからフローへ</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/10/24</td> <td>第6回</td> <td>パラダイム考5</td> <td>性差と家族像</td> <td>マインドコントロールからの開放</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/10/31</td> <td>第7回</td> <td>社会とデザイン1</td> <td>戦争</td> <td>人間の歴史と建築およびデザイン</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/11/07</td> <td>第8回</td> <td>社会とデザイン2</td> <td>建築</td> <td>可能性と期待 flux design+architecture</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/11/14</td> <td>第9回</td> <td>社会とデザイン3</td> <td>現象</td> <td>現象としてのデザイン</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/11/21</td> <td>第10回</td> <td>社会とデザイン4</td> <td>経済</td> <td>世界経済の動きとデザインの関連</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/11/28</td> <td>第11回</td> <td>フラックス考1</td> <td>世界市民</td> <td>第一次・第二次産業の危機がもたらすもの</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/12/05</td> <td>第12回</td> <td>フラックス考2</td> <td>BS+RPT</td> <td>脳刺激と時間の捉え方</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/12/12</td> <td>第13回</td> <td>フラックス考3</td> <td>メディア</td> <td>映画・写真・アニメとTV</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14/12/19</td> <td>第14回</td> <td>フラックス考4</td> <td>ノイズ</td> <td>線引きから生まれるもの失われるもの</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15/01/09</td> <td>第15回</td> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15/01/10</td> <td>第16回</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							14/09/19	第1回	導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法						14/09/26	第2回	パラダイム考1	創造的活動	コンピューターVSヒューマンエラー				14/10/03	第3回	パラダイム考2	疑惑	様々な視点から				14/10/10	第4回	パラダイム考3	異端	その重要性から				14/10/17	第5回	パラダイム考4	情報	ストックからフローへ				14/10/24	第6回	パラダイム考5	性差と家族像	マインドコントロールからの開放				14/10/31	第7回	社会とデザイン1	戦争	人間の歴史と建築およびデザイン				14/11/07	第8回	社会とデザイン2	建築	可能性と期待 flux design+architecture				14/11/14	第9回	社会とデザイン3	現象	現象としてのデザイン				14/11/21	第10回	社会とデザイン4	経済	世界経済の動きとデザインの関連				14/11/28	第11回	フラックス考1	世界市民	第一次・第二次産業の危機がもたらすもの				14/12/05	第12回	フラックス考2	BS+RPT	脳刺激と時間の捉え方				14/12/12	第13回	フラックス考3	メディア	映画・写真・アニメとTV				14/12/19	第14回	フラックス考4	ノイズ	線引きから生まれるもの失われるもの				15/01/09	第15回	定期試験						15/01/10	第16回	まとめ	まとめ				
14/09/19	第1回	導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価法																																																																																																																																					
14/09/26	第2回	パラダイム考1	創造的活動	コンピューターVSヒューマンエラー																																																																																																																																			
14/10/03	第3回	パラダイム考2	疑惑	様々な視点から																																																																																																																																			
14/10/10	第4回	パラダイム考3	異端	その重要性から																																																																																																																																			
14/10/17	第5回	パラダイム考4	情報	ストックからフローへ																																																																																																																																			
14/10/24	第6回	パラダイム考5	性差と家族像	マインドコントロールからの開放																																																																																																																																			
14/10/31	第7回	社会とデザイン1	戦争	人間の歴史と建築およびデザイン																																																																																																																																			
14/11/07	第8回	社会とデザイン2	建築	可能性と期待 flux design+architecture																																																																																																																																			
14/11/14	第9回	社会とデザイン3	現象	現象としてのデザイン																																																																																																																																			
14/11/21	第10回	社会とデザイン4	経済	世界経済の動きとデザインの関連																																																																																																																																			
14/11/28	第11回	フラックス考1	世界市民	第一次・第二次産業の危機がもたらすもの																																																																																																																																			
14/12/05	第12回	フラックス考2	BS+RPT	脳刺激と時間の捉え方																																																																																																																																			
14/12/12	第13回	フラックス考3	メディア	映画・写真・アニメとTV																																																																																																																																			
14/12/19	第14回	フラックス考4	ノイズ	線引きから生まれるもの失われるもの																																																																																																																																			
15/01/09	第15回	定期試験																																																																																																																																					
15/01/10	第16回	まとめ	まとめ																																																																																																																																				
成績評価基準	<table border="1"> <tr> <td>定期試験</td> <td>70%</td> <td>実技</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>臨時試験</td> <td>0%</td> <td>部外評価</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>報告書・レポート</td> <td>30%</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td>0%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>演習</td> <td>0%</td> <td>計</td> <td>100%</td> </tr> </table>							定期試験	70%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%	報告書・レポート	30%	プレゼンテーション	0%	課題	0%			演習	0%	計	100%																																																																																																												
定期試験	70%	実技	0%																																																																																																																																				
臨時試験	0%	部外評価	0%																																																																																																																																				
報告書・レポート	30%	プレゼンテーション	0%																																																																																																																																				
課題	0%																																																																																																																																						
演習	0%	計	100%																																																																																																																																				
授業到達目標の達成度	いずれの到達目標に対してもおおむね達成した。																																																																																																																																						
反省点	時間内に深い議論まではなかなか入り込めないで少し噛み砕いた進行が必要。																																																																																																																																						
来年度の計画	自分の意見から総合的にもものを見る議論へと回をおうごとに成長していくようにする。																																																																																																																																						
授業評価アンケートに対するコメント	特に無し																																																																																																																																						
履修登録者数	36名	定期試験受験者数	30名	合格者数	28名	合格率	93%																																																																																																																																